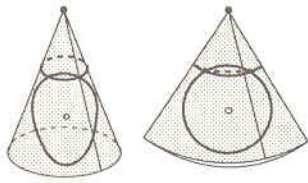


Origami Tanteidan Newsletter

折紙探偵団新聞



まず前回の補足から、負曲率曲面と負曲率の曲面の違いの追加説明である。正曲率の方が分かりやすいので、こちらで説明する。円錐面は厳密にいうと正曲率曲面ではない。的がつく。半円から作った円錐では、先端中心の単位円の周の長さは π で、 2π より短くなる。しかし先端以外を中心とする単位円の周の長さは 2π である(図1)。つまり正



(1) 図1 (2)

曲率となるのは円錐面を構成する無数の点のうち1点のみで、その他の点は曲率0、つまり本質的には平面である。これに対して球面では、すべての点で単位円の周の長さは 2π より短くなる。球面は正曲率曲面の代表なのである。曲率が負の場合も同様で、図2(1)では、5弁の花の中心のみ負の曲率で、その他の点は曲率0である。そして球に相当するのが図2(2)の鞍形である。

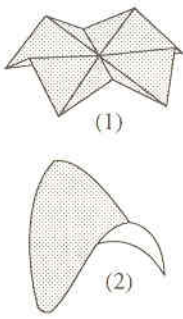
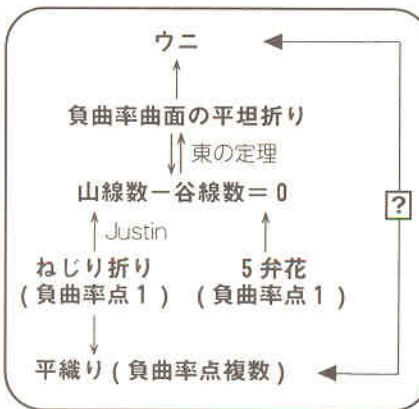


図2

では本論に入る。今回は、普通の紙による負曲率曲面の折り紙を疑似体験する。東の定理(第3回)は、山線数-谷線数=0が負曲率と関連していることを主張している。またJustin氏の結果の説明に使ったねじり折りには山線数-谷線数=0構造が入っている(散歩コースC)。この2つから、ねじり折りが負曲率点1つに相当することがわかる。

さてねじり折りと言えばバラ、ではなくて平織りである。5弁の花やねじり折りの負曲率点は1点だけで

あるが、ねじり折りは集合して平織りとなるので、平織りは複数の負曲率点を持っていると考えることができる。まとめると次図式になる。



上図式から平織りとウニには何らかの関係があることがわかる。どう



関係しているのであろう?

筆者作のシャクナゲ(図3)は紙を規則的に折って作る。平織りではないが平織り的ではある。シャクナゲに少し手を加えてから花

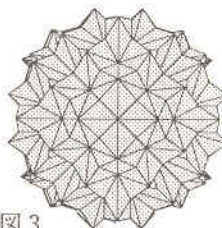


図3

弁を細く折り込むとウニに似たものができる。つまり平織りとウニの間

のミッシングリンクはシャクナゲである。

ぜひシャクナゲを折っていただきたい。折り図は季刊をる別冊『折り図集2』に載っている。シャクナゲは折る過程で一旦平坦にたたまれる。これをひろげてから花らしく丸くするが、その途中に紙全体が鞍形になるときがある。実はこの形がシャクナゲの折り線が持つ自然な形、たぶん三浦公亮先生がおっしゃるところのストレスが少ない安定した形状である。したがって丸まった形を保つには力が必要で、そのための止め具がシャクナゲの花の下についている。

如何であろうか? 一見無関係に見える折り紙が見えない世界でつながっているのである。今回は負曲率というパスワードでその世界に入った。人に見えない裏の世界を発見することこそ研究の醍醐味である。実は第2回の執筆時点で私の頭の中にあったのは、図式の一部



だけであった。東の定理が負曲率曲面の平坦折りとねじり折りを結びつけることに気づいたとたん、一晩で第2回~5回ができた。機は熟していたのである。ちょっと空を仰いだら熟れた果実が目に入ったので、もいで食べただけである。そう言えばこの木に肥料をやったり葉についた毛虫をとったりしていたな。きっと東さんがくれた枝を継木したのが良かったんだなあと思いながら。

自由研究課題: 先の図表において、ねじり折り→平織りに対応する5弁花→?は何であるか。実際に作品を作ってみられたい。



折紙時評

まえかわ じゅん Jun Maekawa

■旅行をする暇がよくあったと自分で感心している。

第7回 「折鶴伝説の秘密」

-折り鶴ボールデントライアングル訪問記-

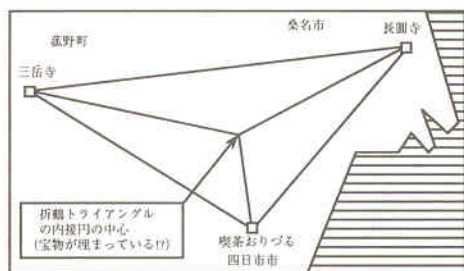
前川 淳

「折鶴がデザインされたものならば何でも来い」の、我がコレクション。これが、エスカレートの一途をたどっている。先日は、ラベルに折鶴が使われているだけで「清酒白鶴・季節の酒シリーズ」を買ってしまった。わたしはアルコールに強いほうではなく、晩酌もしない。並んだ一升瓶を見て呆然としていたところだ。さらには、折鶴があしらわれたマンホールの蓋まで手に入れた。大人ふたりがかりでないと運べないしろもので、置く場所に困っている。

そんなわたしが、去る11月2日と3日、三重県桑名市、四日市市、および菰野町を訪ねた。桑名市は、「秘傳千羽鶴折形」の魯綿庵が住職をしていた長圓寺を有する「千羽鶴の故郷」、くだんのマンホールを生んだ街でもある。また、隣接する四日市市には、同市出身の中西健一氏により「喫茶おりづる」なる店があることを知らされていた。桑名市を散策、長圓寺を表敬訪問し、喫茶おりづるで茶を喫することは、折鶴マニアとしてかねてよりわたしの念願であった。

今回、思いあって足を延ばしたのは、桑名・四日市両市の西隣にある菰野町・湯の山温泉に、詳細まったく不明の「折鶴伝説」なるものが伝わっているという情報を目にし、好奇心にかられていたためでもある。今回はこの伝説調査の顛末を記す。

伝説はインターネットで知った。



ほぼ直角二等辺三角形に配置された折鶴関連の場所(おっと、「トンドモ」の世界だ!!)

鈴鹿山系のハイキングに関する記事の中に、「この地方にはかずかずの民話がある。恋結折鶴伝説・・・云々」とあった。情報はそれだけだった。現地を訪れる前に、「三重県の伝説」「三重県の昔話」等の書物をあたったのだが、目当てのものは見つからなかった。

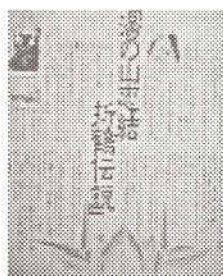
湯の山温泉は、いわゆる名古屋の奥座敷、有名な観光地である。紅葉盛りの、抜けるような秋空の連休の中、同所の人出は想像をはるかに越えるものだった。

まず立ち寄ったのは菰野町物産館。地元の名産品には目もくれず、そこにあった「菰野の歴史話1-5」なる本を調査した。しかし、折鶴の「お」の字もない。ガセネタだったのかと落胆しかけた時、同行した妻が目指すものを発見した。「Komono Shock!、ミラクルガール」という、「いかにも」の、若い女性向けのパンフレットの中に、「温泉街の中腹の三岳寺には、若いふたりが折鶴を奉納すると願いがかなうという伝説がある」との記述があった。かなり怪しい話だが、「折鶴伝説」、あることはあった。

翌日、われわれが三岳寺で見たものは、「奉鶴」と書かれた大きな賽銭箱のような折鶴奉納用の箱であった。箱の前には、雑然と千代紙と鉢が置いてあった。妻とふたりで思わず整理整頓してしまったくらい雑然としていた。奉納は一回百円。「若いふたり」とは言えないが、わたしと妻も奉納してきた。「不切正方形一枚折り・色分け妹背山」を折りたいのをぐとこらえて、指示通りの羽と羽がつながったごく普通の連鶴を折った。で、その「折鶴伝説」とはどんなものなのか? 寺でもらったパンフレットを要約してみよう。

貞享年間(1684-1687)、上方の

大店の娘・葵と手代の佐吉が恋に落ち、駆け落ちをした。ふたりは湯の山の蒼滝の前で死のうと話していた。その時、ひとりの僧兵が現れ、「死ぬなど考えるな。今日はひとまず温泉にでもつかりなさい」と告げる。その夜、温泉に入ったふたりは、生きる力を取り戻し、翌日三岳寺に参拝に行く。何も持たないふたりは、手元にあった紙で折鶴を折って奉納する。すると、二羽の折鶴が光を放ちなが



折鶴伝説のパンフレット

らひとつになる。その後、ふたりは幸せに暮らすことができたようになった。後日、再び湯の山を訪れたふたりは、寺の住職から僧兵はとうの昔に信長に滅ばされたと聞く。

うーむ。まずは、蒼滝。これは湯の山第一の観光ポイントである。次に僧兵。これも、湯の山観光の売りのひとつで、夜中に松明を掲げる僧兵まつりなるものがある。温泉は言わずもがな、どれも地元の名物である。ほとんど観光案内のような話だ。話に登場しないのは「標高差700mの大ロープウェイ」ぐらいである。これはさすがに出すわけにはいかない。

貞享年間、三岳寺が再建された年代で、「千羽鶴折形」から百年遡る。高木智氏によって現在確認されている最も古い折鶴の図版の年代よりも古い。・・・などと、詮索するのはやめよう。仏罰があたりそうだ。同寺では、二月最終日曜日に「折鶴祭り」も執り行われる。

なお、この伝説は地元の中西氏も知らなかった。「健一・麻香」と書いた折鶴が見つかるかと恥ずかしいのでしらばっくっていたのかも知れないが。

岡村昌夫

第32回

おりがみ庵

おかむら まさお Masao Okamura

■おかしな年だったが間も無く過去になる。未来が大事だ。



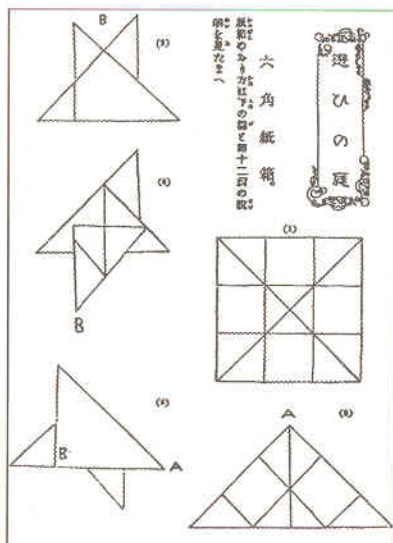
『欄間図式』の立方体

笠原邦彦氏が昨年の暮に出された『ジョイ・オブ・オリガミ』（双樹舎刊）の中で、『欄間図式』（1734年刊）に見える折り紙の内の2種を「ユニット様立方体、そして24面体？」と解釈する旨を書いておられた。「24面体」の方は別の機会に譲るとして、今回問題にしたいのは、このソノベ・ユニットによるカラー・ボックスにも見える「立方体」を、伝承の「糸入れ」（「めんこ」）の背後を対角線状に切り込んで継ぎ手としたものを6個組み合わせるという「笠原案」である。この「糸入れ」で作る立方体は、『紙工芸 技法大事典』に「四角組み箱」の題で、本多功氏の『The World of Origami』（1965）に「Cubical Box」の題で載せられていたものだが、余り知られていないらしい。そしてこれらは共通して、継ぎ手を差し込むだけで糊を用いないで組むというところに問題点があった。抽象的な「立方体」という図形を作るという場合は、ともかくとして、『欄間図式』の場合は、説明文中に「たまてはこ」と書いてあるものに該当するはずで、それならば絶対に継ぎ手を糊付けしなければならないというのが私の考えである。実はこの件について高木智氏が、『鷹陵 No.153』（97年8月、仏教大学）に執筆されていて、私見に賛意を示してくださったのだが、多くの人に知っていただきたい重要な問題が有ると思うので、書くことにした。

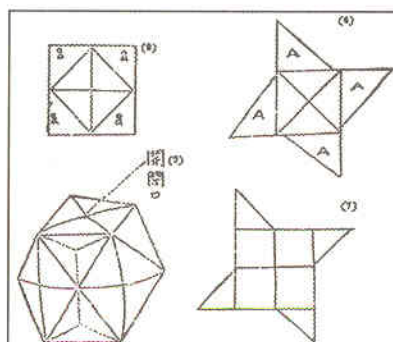
[不思議な「玉手箱」]

明治24年に博文刊館から創刊された『幼年雑誌』という名の幼年雑誌の、明治26年第17号（9月）に「六角紙箱」の折り方が掲載されている。読者からの投書をそのまま載せたと記されているが、なかなか面白いのでその図の部分だけを紹介しよう。

勿論、裏返し記号や矢印なども無い素朴な折り図である。伝承の「糸入れ」の背面に十文字の切り込みを入れて、それをユニットにして6個組み合わせる。この折り図では、1図の中央の正方形の対角線の部分を先ず切っておいて折り始めるもので、リズムカルな手順が楽しい。3図・4図がやや不正確だが、読者試みられよ。



6個のそれぞれの切って出来た継ぎ手を糊で貼り合わせると9図のような、正方形の面が6つ、正三角形の面が8つの、切り子型の立体が出来る。これと同じものが翌年の『小国民』というライバル誌にも掲載され



ているが、この『幼年雑誌』の方は、前述のように折り手順が面白いし、完成図に「開閉口」とあり、「口は六角、いづれより開くもよし」という説明があるのが注目される。この立体は、六つの各面のどこでも開けられるようになっている奇妙な容器なのである。高木氏によると、本多功著『オリガミ』（1933）に同じものが「六角玉手箱」の名で出ているそうであるが、未見である。（『The World of Origami』には「Six-sided Box」として出ている。）6個のユニットを普通に組めば、前記の「立方体」になる。どこの面からでも開けられる不思議な容器だから「玉手箱」の名がふさわしい。そして開けるためには、糊付けが不可欠なのだ。

[これは「絶対折り紙」か？]

『The World of Origami』には、もう一種、同じ形に見える「Mystery Box」という立方体が出ていて、最近、宮下温翁から頂いた資料によると、渡辺保平編著『小学手工全書』（1930）に全く同じ作品が「組合四角」という名で出ている。「幅2センチ長サ10センチ2ミリ位」に切った紙を6枚組み合わせる。「2ミリ」というのは紙の厚さを考慮したものである。これは、どの面で開けても中蓋があって物を入れることが出来ない仕掛けの箱である。しかし、先の「玉手箱」に比べて、あまり良い作品とは思えない。

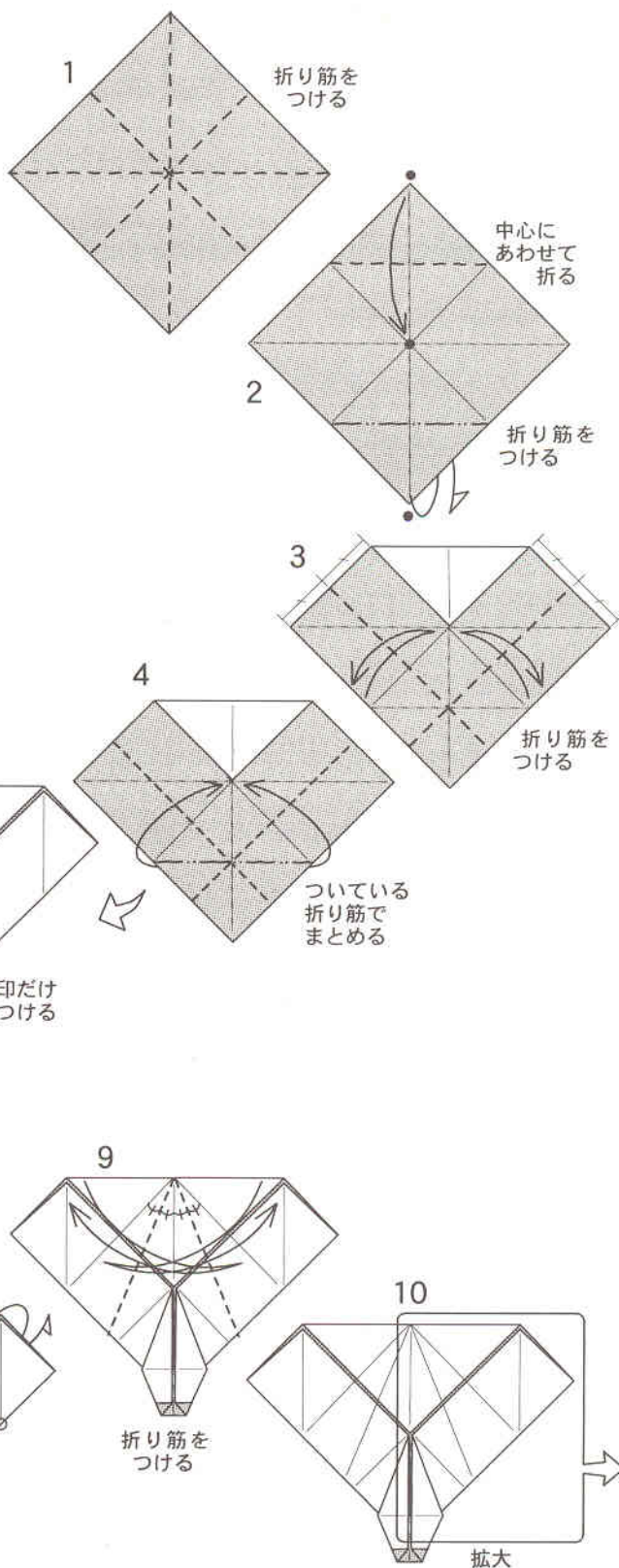
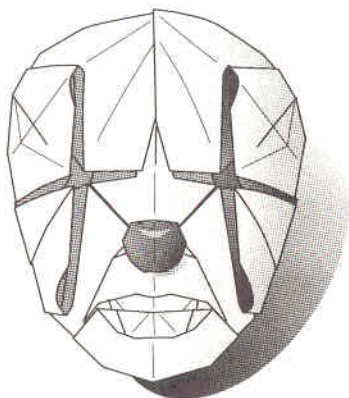
ところで、これらの「箱」は、羽鳥氏の分類でいうと、「絶対折り紙」になるのだろうか。「糸入れ」は、その物であって「見立て」ではない。依然納得がいかないが、紙面が尽きた。

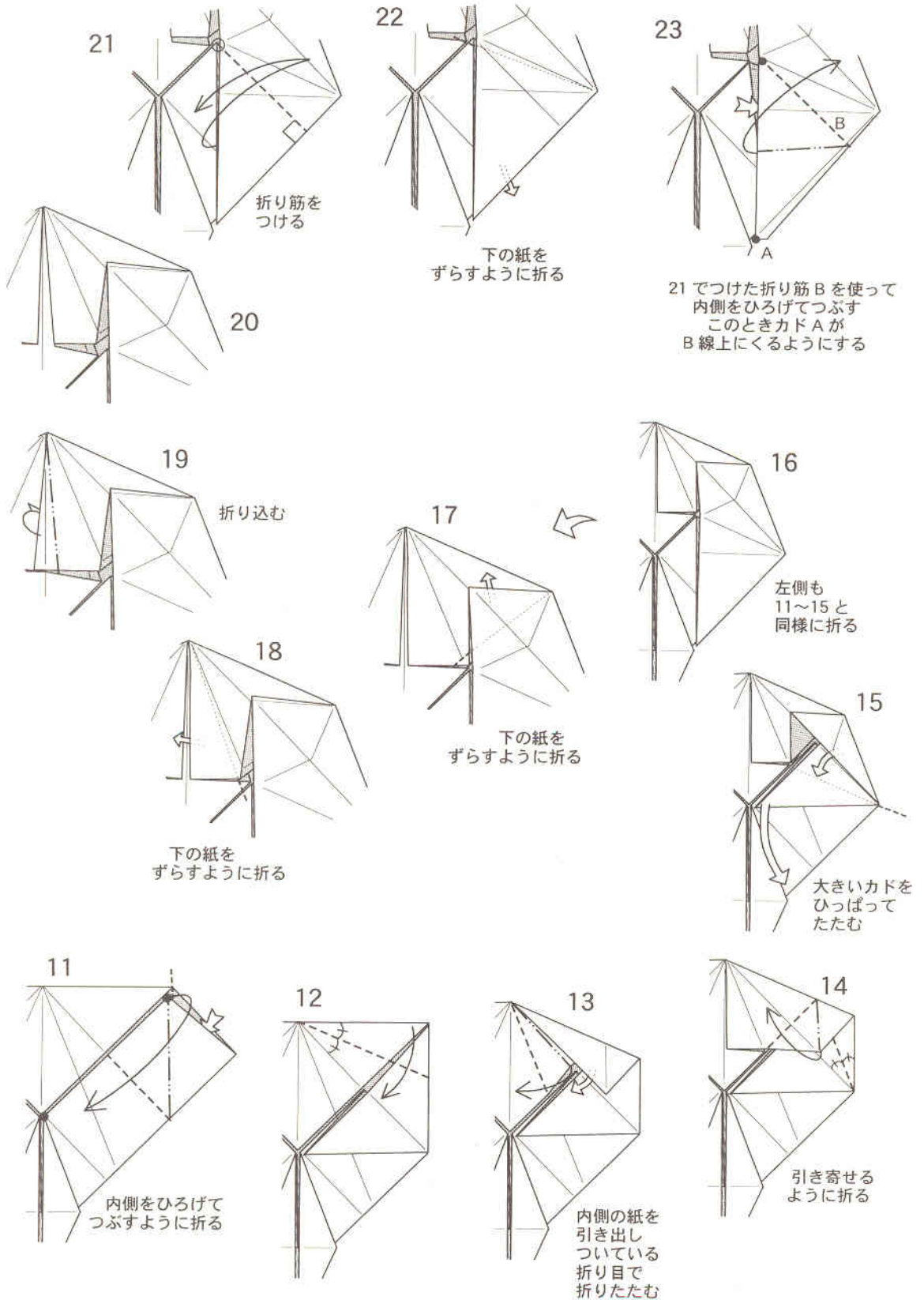


MYSTERY BOXのユニット

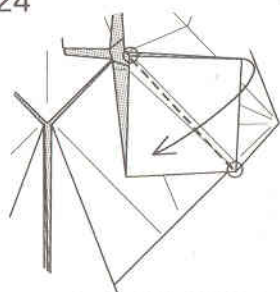
面化道

作／図 小松英夫



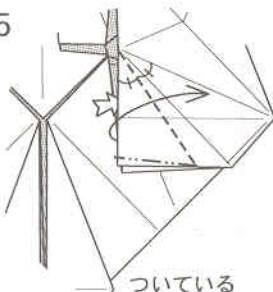


24



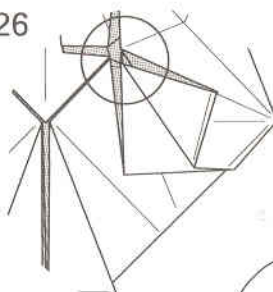
印を結ぶ線で
いっばいに折り下げる

25



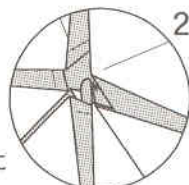
ついている
折り筋に
合わせるよう
にずらしなが
ら折り上げる

26

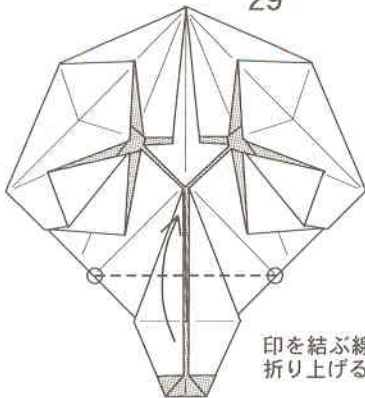


カドを向こう側に
折ってとめる
(折りすすめるうちに外れやすい
ので完成時にチェックすること)

27



29



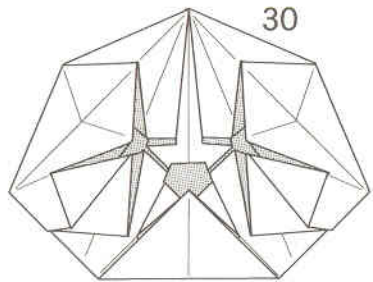
印を結ぶ線で
折り上げる

28

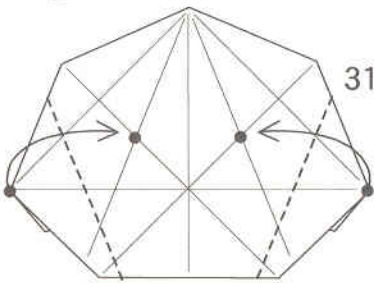


左側も
17~27 と
同様に折る

30

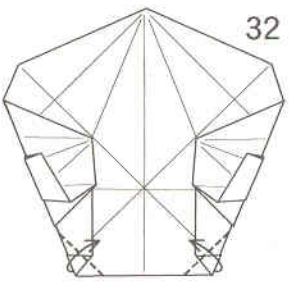


31

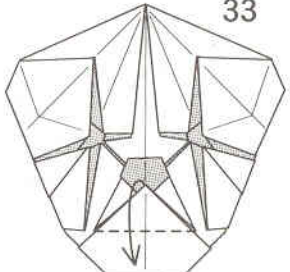


印を合わせる
ように折る
紙が重なって
いて厚いので
しっかりと折る

32

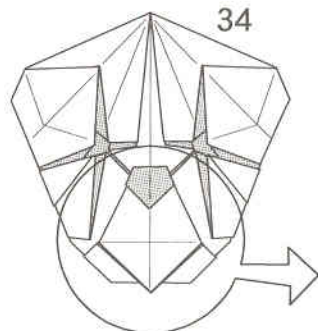


33

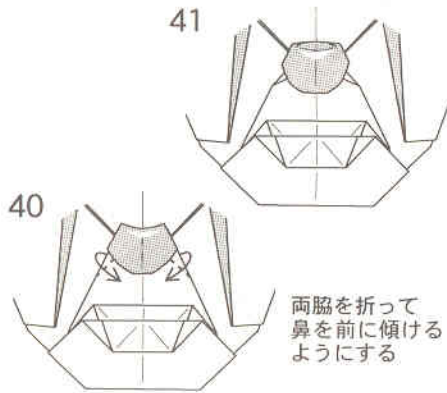


口になるカドを
折り下げる

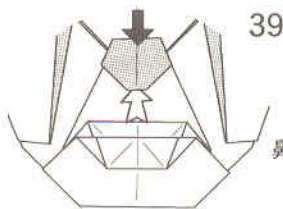
34



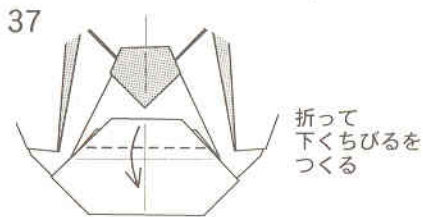
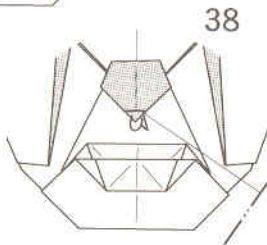
拡大



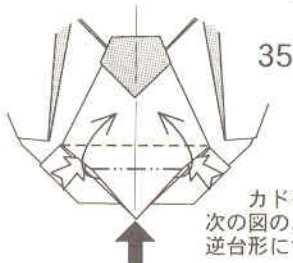
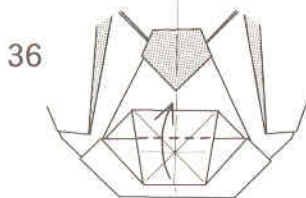
両脇を折って
鼻を前に傾ける
ようにする



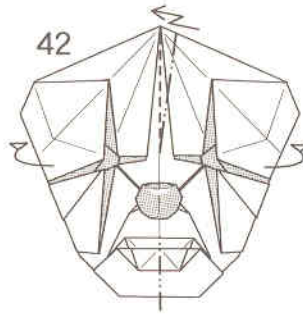
下から
指を入れて
ふくらませ
鼻を立体化する



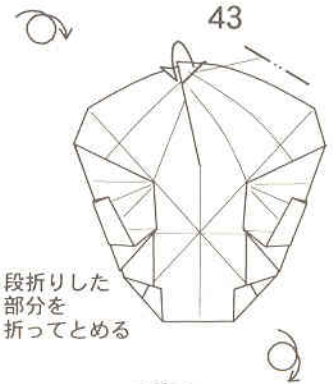
折って
下くちびるを
つくる



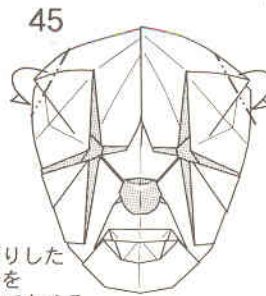
カドを
次の図のように
逆台形につぶす



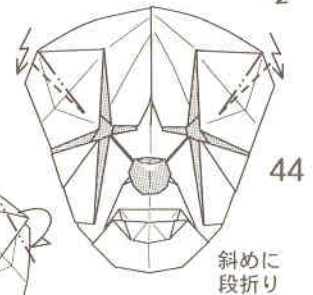
全体を軽く半分に
折りながら 頭部を
斜めに段折り
(あまり大きく
段折りしない)



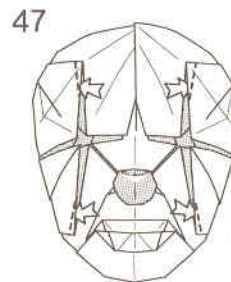
段折りした
部分を
折ってとめる



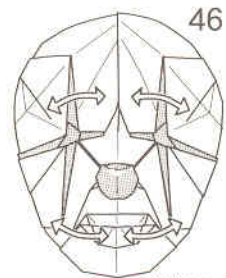
段折りした
部分を
折ってとめる



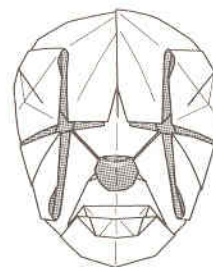
斜めに
段折り



模様先の折って
丸みをつける



全体によく
丸みをつける



できあがり

"MASK OF CLOWN"

model designed by Hideo Komatsu Aug.-Sep. 1994

diagrams produced by H.K. Oct. 1997

inspired by the motion picture "I Clowns"

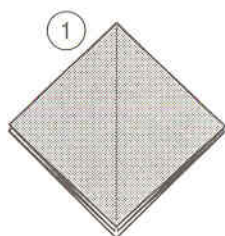
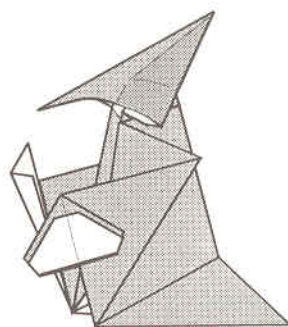
魔女 *Witch*

作ったのも / 図を書いたのも

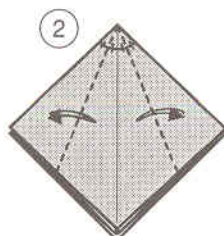
Designed/Drawn by

渡辺 大

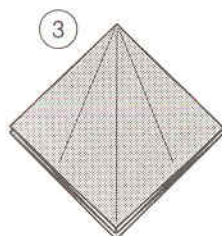
Dai Watanabe



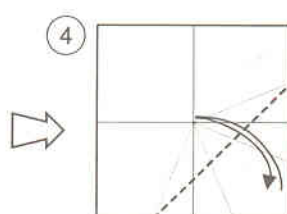
① 正方基本形から



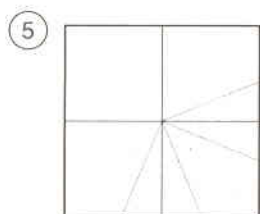
② 折り筋をつける



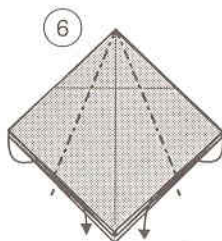
③ 開く



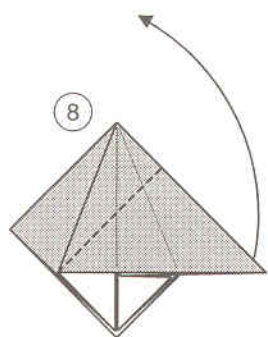
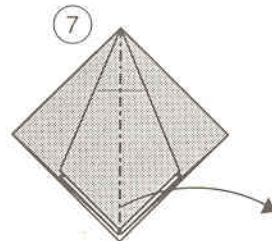
④ 折り筋をつける



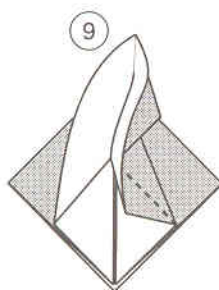
⑤ 正方基本形に戻す



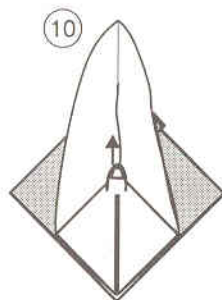
⑥ 中割り折り



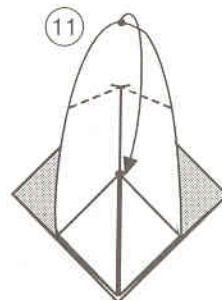
⑧ 角を折り上げる

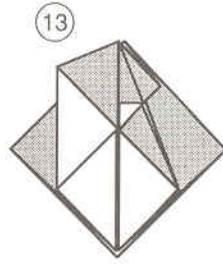
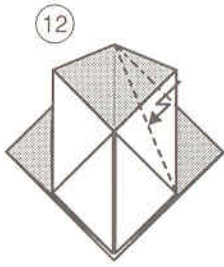


⑨ (途中図)

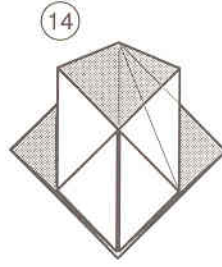


⑩ まんなかを指でつぶしていくような感じで

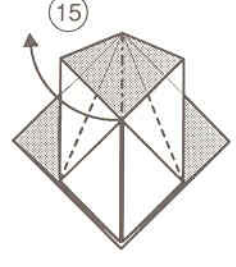




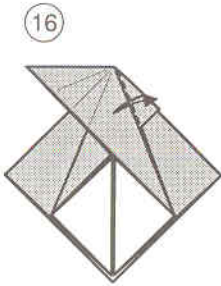
元に戻す



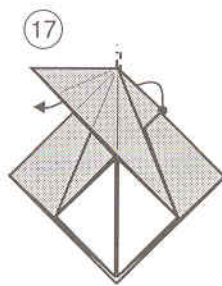
反対側も同じ



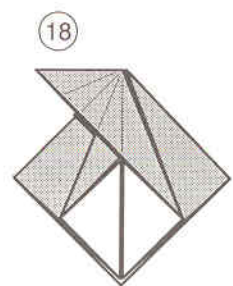
カドを折り出す



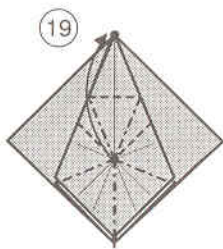
折り筋をつける



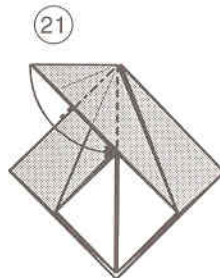
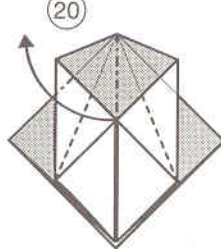
逆側へめいっぱい中割り折り



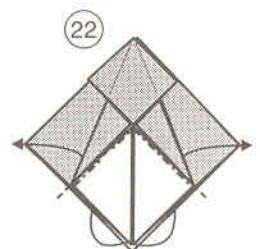
⑦まで戻す



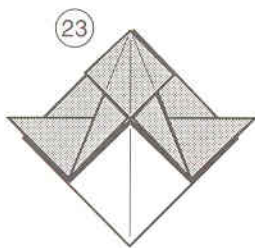
つけた折り筋でまとめる



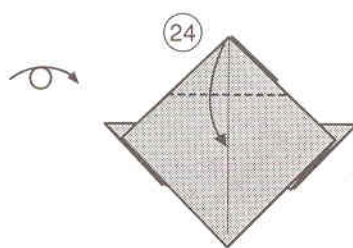
開いてつぶす



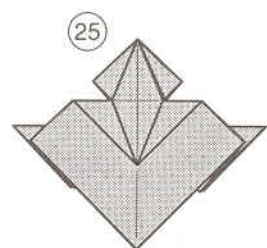
中割り折り



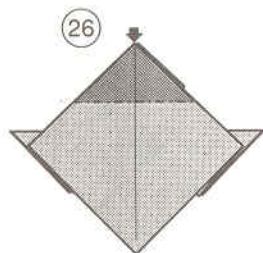
裏返す



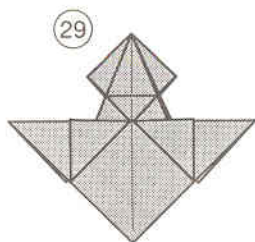
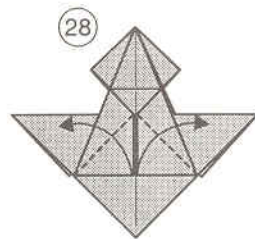
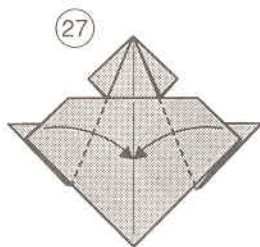
めいっぱい折り下げる



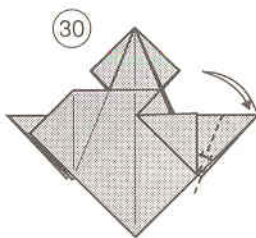
元に戻す



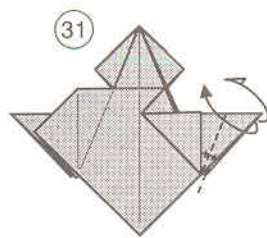
沈め折り
(ClosedSink)



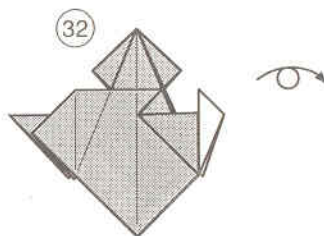
左側だけ元に戻す



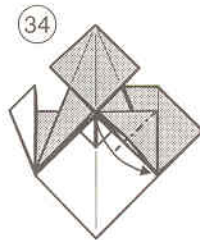
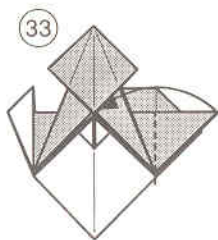
折り筋をつける



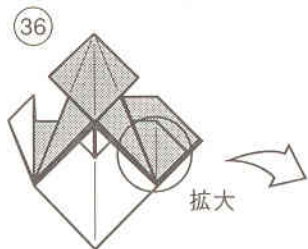
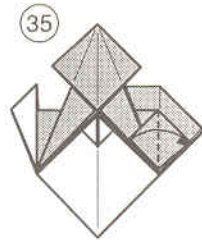
かぶせ折り



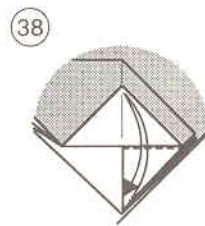
裏返す



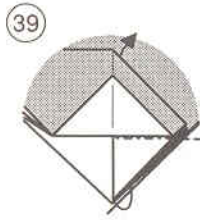
開いてつぶす



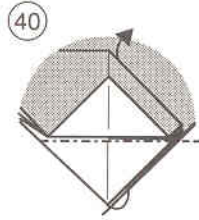
一番上だけ折り上げる



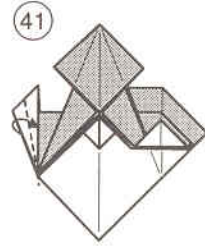
次の角に折り目をつける



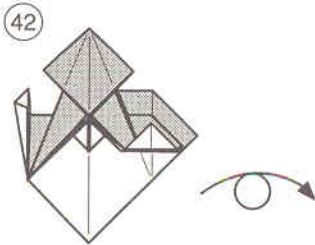
つけた折り目で中割り折り



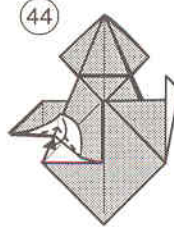
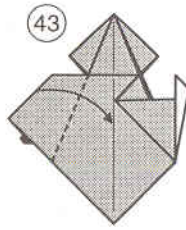
その次の角も
同様に中割り折り



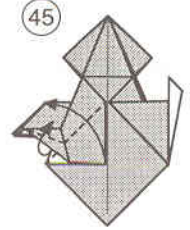
杖の部分进行細くする



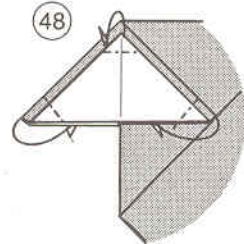
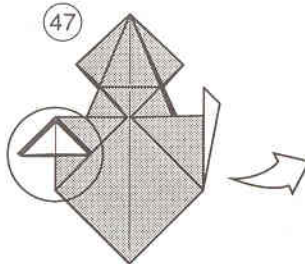
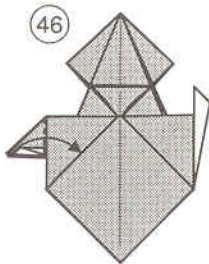
裏返す



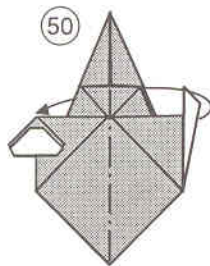
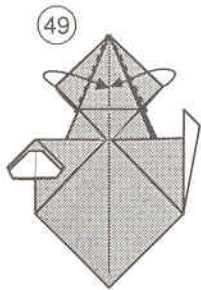
途中図
浮き上がった部分をつぶす



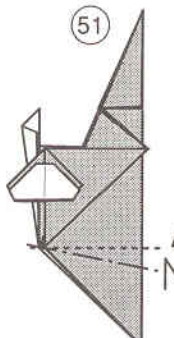
籠の底がきれいになるように折りたたむ



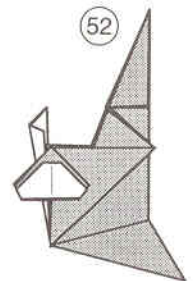
端を折って籠らしさをさす



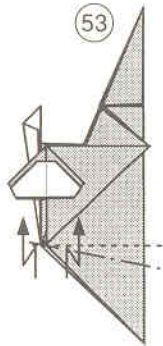
半分に折る



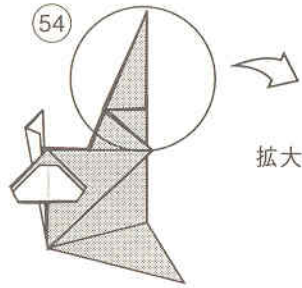
折り筋をつける



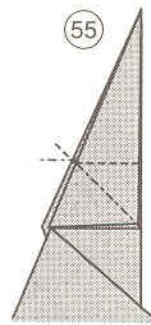
元に戻す



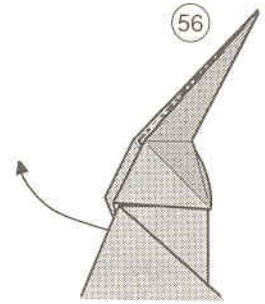
かぶせ折り



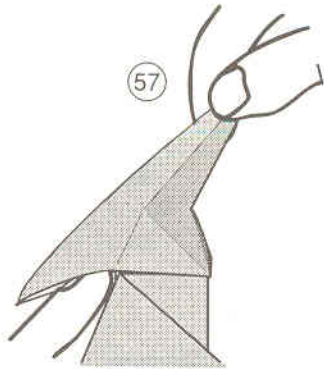
拡大



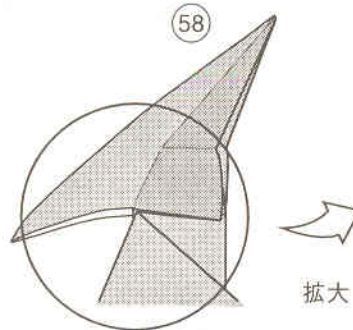
中割り折り 2 連発



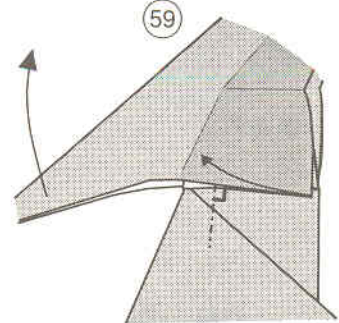
中の角を引き出す



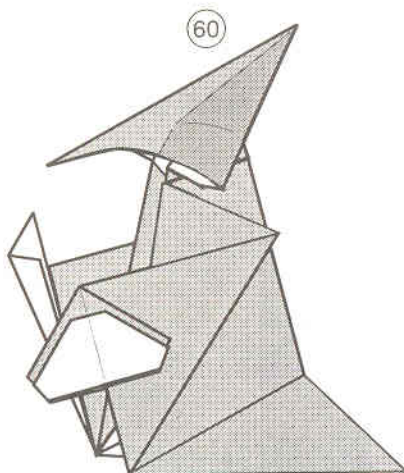
帽子の部分をふくらます



拡大



帽子の角度を決める



後は細かい仕上げをして
できあがりー

はじめまして、こんにちわー。
初登場の渡辺大です。初っ端から
こんな面倒くさいのでごめんなさい。
「折り図書け」といった木〇さんが
いけないんですからねー。
ところで、ちゃんと折れましたか？
折り図書くの初めてだったので
つつい面倒なところをはしょってあります。
最後に、この作品を折ってくださった方、
そしてこんなしょうもない文章に
目を通してくださった方、
ご苦勞様でした。
そして、ありがとう。

文責：渡辺 大

編集部注：連載せずに済む工程数の作品を
我々は「面倒くさい」とは言いません。

九州版

佐世保支局

探偵団新聞地方版開始

地方版編集人の川崎です。探偵団の活動の裾野を広める一策として、試験的に地方版を設けていただくことになりました。探偵団のレベルはどの折り紙団体にもひけをとれません。と言うよりずば抜けていると思います。しかし団の名称が表しているように、オタク的な面も他の団体より抜きこんでいるようです。東京を中心に活動している人は仲間がたくさんいるのでそれほど問題にならないでしょうが、「よく分からない集団、難しすぎる」などと評価され、一人寂しく活動している地方在住団員は少なくありません。初心者でも溶け込める環境作りとその呼びかけを地方版を通して行ないたいと思っています。(九編)

発足2年の鹿児島折遊

134名を集める

長崎、福岡に続き第3回九州折紙コンペションを鹿児島で開催しました。九州各地から(山口真さんは東京から、探偵団の子供達が福岡、熊本から)集まった折紙愛好者との交流は、地元鹿児島人にとっては「すごい」の一言だったようです。

資金ゼロ、自主開催経験ゼロ、不安でいっぱいでしたが、どうせやるなら本格的にと、「九州の折紙愛好者による折紙展」(11/21~26)、折図集、オークションまで盛り込みました。そのため会場のアーバンポートホテル鹿児島、地元スタッフ、各地の折紙愛好者、そしてゲストの川崎先生と多くの方々に助けていただきました。また教育委員会、保育園連盟、マスコミ関係の後援もいただき、ポスター掲示、テレビ、新聞での宣伝もたくさん

しました。その甲斐あって100名近くの参加者を確保しました。そして当日。受付に30名以上の人が並びました。嬉しい悲鳴のなか開会式が始まりました。(134名中子供27名)

地元スタッフいわく「折紙をする人達ってすごいですね。参加された先生方がお客様として全然いばってなくて、みんながスタッフみたいになんでもされるから」。私も同感です。この場をお借りして心より厚くお礼申し上げます。探偵団員である息子2人を持つ一人の母親として、すばらしい人達に子供を会わせることができたことは折紙をやってきて一番良かったと思うことです。おりがみ万歳、そしてありがとう。

(主催者宮本真理子)

展を見て参加した人も少なくなかった。事前の折紙展の宣伝効果大。

作品のオークション

入札方式で行われた売り上げは5万円弱。賛否はあるが運営資金としては無視できない。

後援

教育委員会から地元マスコミなど多くの後援をとった今大会。教育関係者は研修として参加できる大きなメリットがあり、参加者増に一役。

(九編)

地方大会の充実を

折紙探偵団コンペションに、毎回遠方から参加してくれている川崎さんが、特別ゲストとして講習、講演すると聞き、初めて参加してみた。

折紙探偵団コンペションとは多少感じが違う。年齢層、男女比が逆で、NOA(日本折紙協会)タイプである。NOAと違うところは運営がボランティアであり、のびのびとしていながら、細かいところに気配りがあり、スタッフの情熱が感じられたさわやかな大会であった。参加者も当日の飛び入りを含めて130名以上になったのには驚かされた。

今回参加して大きな収穫を得たような気がする。地方の人が遠くの土地で開催するコンペション、シンポジウムなどには簡単に参加する事はできない、それなら、地方単位、県単位の規模で開催したらどうだろうか。潜在的な折紙人口は広く多い。九州コンペションを運営した人達も普通の折紙愛好家だ。手始めに、自分が動ける静岡を中心にした東海地区のコンペションの開催を呼びかけてみようと思う。

(山口)

大規模折紙会合は概ね

2方式に分かれる。

探偵団はUSA方式。講師と受講者が整理されて同時並行で行われる小折紙教室が主体。BOS(イギリス)も同方式。対するNOA方式は参加者全員がほぼ同じメニューをこなす、小折紙教室が補助的に行われる。CDO(イタリア)はこの方式。だが鹿児島大会(NOA方式)は一味違っていった。

書画カメラによる講習

ゲスト講演講習は手元をテレビに写しながら行われた。モニターの配置に課題を残したが、おおむね好評。拡大縮小自在の手元映像と通常の室内照明は、手作業を伴う折り紙講習の武器になる。

毎回ゲストを招待

第1回布施知子氏、第2回笠原邦彦氏、今回川崎と、毎回個性のある作家を招待して、味つけをしている。大会自体もパワーが付き広報しやすい。

同時開催作品展

会の期間をはさんで1週間会場ホテルロビーで行なわれた。未経験者や初心者を引きつけるには解説つきの分かりやすい展示が必要だ。作品

Rabbit Ear つまみおり

探偵団のメンバーが700人に迫る勢いで増えている。
海外のメンバーも50人を超えた。

コマツ
ビデオの 折ったもんがち!

不折正方形一枚切りの極意



第2回吉野一生基金 招待作家募集

吉野一生基金によって折紙探偵団コンベンションへの海外招待作家を1名募集いたします。資格・条件は以下の通り。

- 1) 現在、折り紙の創作活動に情熱を持って取り組んでいる個人。
 - 2) 第4回折紙探偵団コンベンションの開催が予定されている1998年7月25・26日に日本に滞在できるもの。
- 招待者に選ばれた方には、日本への

交通費相当として200,000円を支給します。また、第4回折紙探偵団コンベンションの参加費・懇親会費を免除します。コンベンションでは講師(1-2時間)を務めていただきます。応募は、自薦・他薦を受け付けます。希望者は、(氏名・年齢・住所・ファックス・電子メール・簡単なプロフィール)を明記し、代表作2、3点(作品の写真、折り図、著書のある方は著作

物も可)を添えて1998年3月15日までに、おりがみはうす内吉野一生基金事務局宛に封書でお送り下さい。応募者が複数の場合は、折紙探偵団内で組織する選考委員会(岡村昌夫、川崎敏和、川畑文昭、西川誠司、布施知子、前川淳、山口真)で採否を決定します。(これまでに折紙交流としての来日経験が無い若手が優先される可能性があります。)結果は、折紙探偵団新聞49号(4月発行)誌上およびホームページ上で発表します。

If You Want to Go to Japan in Summer of '98. Apply Now!

Origami Tanteidan Announces;

An invitation for a foreign Origami Artist. Origami Tanteidan is accepting applications for a foreign Origami Artist who want to go to receive an invitation of the 4th Origami Tanteidan Convention in Japan.

If you are selected to receive the prize, you will receive 200,000yen by Issei Yoshino fund as transportation expenses of a round trip between your country and Japan. We would like you to be a lecturer at the 4th Origami Tanteidan Convention in about two hours. So, we exempt you the expenses for participation and dues of social gathering.

We don't care that you recommend yourself or you are recommended by others. If you are a person who wishes to receive that prize, please mail us an application with two or three your original masterpieces which mean photographs, diagrams, and books. You need to write your name, age, address, telephone number, fax number, and E-mail address on the application.

The selection committee from Origami Tanteidan will decide the invited guest after discussing carefully. We will announce the guest on the vol. 49 Tanteidan News and Web

Page in middle of April. The members of committee are Tomoko Fuse, Fumiaki Kawahata, Toshikazu Kawasaki, Jun Maekawa, Seiji Nishikawa, Masao Okamura, and Makoto Yamaguchi.

"The Requirements For Applying"

*Any person who is struggling to create your original work with enthusiasm

*Any person who can stay in Japan from July 25 to 26

Any person who can attend the 4th Origami Convention

*As a general rule we might select young Origami Artist who had not come to Japan for Origami works.

*Further I would like to add that we don't return your application and works

which were mailed. Please understand this matter.

"Deadline Is 15th of March"

"Mail us the application to : Issei Yoshino Fund, Gallery Origami House, 1-33-8-216, Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0001, JAPAN

布施知子さん「おしゃれ工房」に出演

1月6日(火)9:25に放映されるNHK教育TVの「おしゃれ工房」に布施知子さんが、出演します。キャッシー中島さんとお話ししながら

6角形の箱を使って、植木鉢のカバーを作る。撮影は山の家で行われ、愛猫の「聞」も出演します。他にランプシェードも紹介される。

祝

川崎さん、折り紙で博士号取得

祝

本誌巻頭論文でおなじみの佐世保工業高専助教の川崎敏和氏(41)が、折り鶴をテーマとした論文で博士号を取得した。10月27日には九州大学大学院数理学研究科にて博士学位論文審査会を兼ねた公開講演会が行われた。論文の題名は「平坦折り紙胞体分割の組織的構成法の拡張とその応用—折り鶴変形理論」というもので、何をイメージしてよいのか検討がつかない探偵団新聞読者も多いかも知れない。川崎氏に付録付きでその一端をご紹介願った。

編：理論の概要を教えてください。

川崎：折り鶴は正方形でなくても折れます。菱形で試せば普通の折り鶴とほとんど同じに折れることが分かります。伏見康治氏は、はた形(1つの対角線に関して左右対称な四辺形)

で、J. Justin 氏は内接円を持つ四辺形で鶴が折れることを示しました。これとは独立に前川淳氏は正方形のまま鶴を変形させることに成功していました。わたしは、四辺形の角二等分折りで全てを統一しさらに発展させたというものです。(付録参照)

編：不思議な体験をされたとか。

川崎：締切半月前に論文原稿を完成させた翌日、突然イタリアの藤田先生から雑誌が届きました。そこに掲載されていた Justin 氏の変形折り鶴の論文は、私の研究と大きく重なっていました。藤田先生は私が折り鶴変形の研究をしていた事を知らないまま偶然、先を越されていた事実を私に伝えた訳です。

普通だったら原稿は没ですが、大急ぎで続く論文を考え、折り鶴の変

形についての問題を完全に解決させました。この間わずか10日間。そのあと前川式折り鶴変形が発展して私が追い越されていないかどうか前川さんに確認して論文にまとめました。こうしてその年私は、娘詩織とあわせて2つ宝物を得ました。

編：この理論を一言であらわすと？

川崎：今回の内容は、素人にも分かるシンプルで美しい理論です。学位を頂いた事はもちろんですが、このような理論に出会えた幸運に感謝しています。これ以前の私の論文が「考えた」ものだったのに対して、「既にあったものを発見した」というくらい自然な理論なのです。

編：おめでとうございました。

おそるべきイタズラ小僧 Jeremy Shafer

サンフランシスコ折り紙会議にて レポート：日詰明男

去る11月8日と9日、サンフランシスコで折り紙会議が開かれました。たまたまサンフランシスコに立ち寄っていた私は、Peter Engel さんの口添えて、飛び入り参加できることになりました。会議が行われている建物はすぐに見つかりました。なぜなら夢中で折り紙を折ってる人々が、会場前の公道にまではみ出して青空教室化していたから。

私はメイン会場に入り、受け付けにいたスタッフに、自己紹介のつもりで幾何学的なオブジェを披露していると、いつの間にか脇にひとりの若者が立って熱心に私の話を聞いています。スタッフも彼に気がつき、ほら最高の聞き役が現れたよと彼の登場を喜びました。彼の名前は Jeremy Shafer。

私は彼にひととおり作品を見せた後、幾何学的な折り紙を見たいと言うと「もちろんあるさ」と彼。地下の展示会場へ案内してくれました。

それほど広くはない展示会場に入ると、あるわあるわ。一つ一つ感心しながら展示作品を見入っていると、なにか背後に気配を感じ、振り向けば Jeremy が折り紙の大きなお面を

持ってニコニコしています。どういう仕組みなのか、お面の目玉をぎょろぎょろ動かして、今にも腹話術が始まりそう。なるほどこの作品で彼はまず子どもたちの心を掴むのだな。

次に彼が見せてくれたのは、しわしわの正四面体が膨張したり収縮したりする作品。見ると彼の展示スペースにはとぐろを巻いた蛇腹作品がいくつもあり、それぞれを動かしてみせてくれました。すべて彼のオリジナルと聞いてびっくり。このあたりに彼の仕事の真骨頂があると見ました。

これらだけでも私はもう十分堪能したのですが、彼はまだまだ見せる。

一枚の紙から折ったという信じ難い鎖(写真)や、本物のスイスナイフのようにいろいろな道具が出てくる原寸大の作品など、次から次へと手品師のように出してくれて、私はもう彼の多彩な才能に涙がでるほど喜んでしまいました。

彼の話し方を聞いて感じるのは、彼にとってどれがメインでどれが余技という区別は存在せず、全てかわい自分の折り紙作品であるということ。そういえば注目すべき日本の



折り紙作家たちも、どこか博物学者の気風があるなあ。この懐の深さは折り紙ならではのかもしれません。

私は別の用事があり、名残り惜しくもわずか2時間で会場を立ち去らねばなりません。しかしこの短いチャンスに Jeremy の俊英な才能に触れることができたのは何といっても幸運でした。(了)

おりすじ

「変則的複合折紙夜話」

濱田隆幸

折紙と付き合う様になって今年で13年目になる。しかし、自分で創作をする様になったのは4年前、割と最近の事だ。

4年しか経っていないので作品数はまだ少ない(30作品ほど。当たり前と言われれば確かにそうだけれど)。一部を除くと全作品の6割は変則的な分割をした複合折紙である。組み合わせるまで形が見えない物、恐竜の部分化石の様なバラバラな分割…技術があまり無い時点で創作をスタートした為、少しでも人のやらない複合にしようと考えた結果だ。多くの作品は漠然としたイメージから生まれた物だが、中にはそうでは無い物も存在する。

高校生の頃、冷凍トラックに大量の牛の枝肉が吊られているのを見たことがあった。後になって、頭を切り落とされ、背骨を中心に真っ二つにされた牛の枝肉を思いだした僕は、不埒にもそれを折紙に生かせまいかと考えるようになった。折ろうとする物(鳥や獣に限られるだろうが)を、普通なら前半身・後半身で分ける所を、背骨を中心に左右に分けて折ろうというのだ。僕はこの折り方を使用する紙の数に応じ「三枚おろし」「二枚おろし」と呼んでいる。(今年度のコンベンションの僕の講習作品「風

風」がよい例である)

人が生きる為とは言え、多くの命が失われるのを目の当たりにして、それを折紙のネタにする自分の神経の図太さには呆れたが、或いはその命の成せる業なのかも知れないと、自分では勝手にそう思っている。

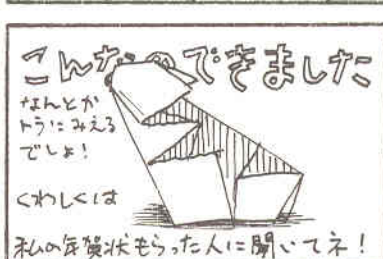
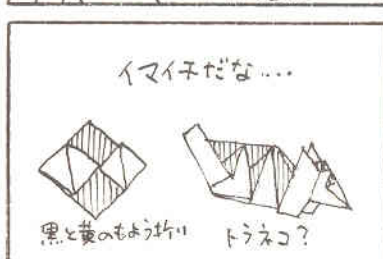
話は変わるが、10月の定例会の際、1枚折りのパンダ(9月に創作)を持って行ったら、それを見た人の大半が「作風変えたの?」「1枚折りなんて君らしくないな」等の意見だったのには驚いた。それと共に変則的複合折紙に対する予想外の認知の広さ(なんと一人よがりな…)に喜びを隠す事が出来ず、まだ見ぬ次回作に向けて今から創作意欲が沸々と湧き上がる今日この頃である。

(誤解の無い様に追記するが、変則複合はかなり昔から色々な人が手懸けている技術であり世界レベルで見れば多数の作品が存在するのだと思う。僕の作品もそうした作品があってこそその物だと思っている。世界で最初に変則複合を考えた人が誰なのか今の僕に知る術は無いが、この場を借りて謝意を述べたい。)



迷探偵
オリン君
作: 山梨雅三

折紙年賀状の巻(別名トラの巻?)



定価 300 円

発行・折紙探偵団

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

ギャラリーおりがみはうす内

Phone (03) 5684-6080

発行人・西川誠司

編集人・岡村昌夫

新刊書紹介

布施知子折り紙作品集

「面」= The Mask



布施知子・著
山口 真・編
おりがみは
うす・刊
B5判、200頁
カラー口絵
16頁。
定価3,300円
送料430円
(梱包込み)

■ユニット折り紙で知られた作者が20代頃、折り紙に芸術を求めて、熱

い思いで製作した作品群。ユニット折り紙に出会うのはそれより数年後のことになる。

■伎楽面、舞楽面、行道面、狂言面、能面に分けて、丁寧な折り図で27の作品を紹介。

折紙探偵団定例会の お知らせ

●12月の例会はお休みです。

◆1月の例会は、1月31日(土)2時から小松英夫氏の折り紙教室があります。◆例会の前に探偵団グルメツアーがあります今回は、築地「らく万」(電話3541-2577)探偵団の綿田氏の店です。料理は「探偵団松花堂弁当」2,500円(飲み物別)現地集合11時30分 地下鉄日比谷線、築地駅下車築地小学校前。参加希望者は事務局まで。

